

2 - 4 青森県岩木山麓の群発地震について

Earthquake Swarm that occurred at the foot of Mt. Iwaki, Aomori Prefecture

気象庁 地震活動検測センター
SAMC, Japan Meteorological
Agency

1972年11月7日12時03分に弘前市裾野地区を中心として空撃音を伴った地震があり、その後山麓では第1図のように有感地震が断続的に続いている。1973年1月31日までの約3カ月の間に発生した一番大きかった地震は、12月6日22時36分のもので、震央付近では震度Ⅲ、マグニチュードは3.9であった。

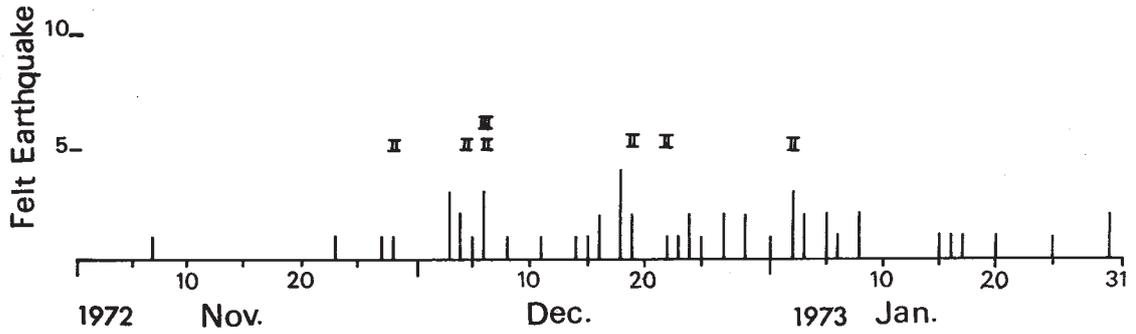
岩木山は青森地方気象台^{1, 2)}などの調査によると、第2図のように19世紀中頃までは時々噴火の記録があるが、1863年3月23日以後現在まで噴火は起っていない。しかし、1970年1月9日8時06分に岩木山東方の東経140度28分、北緯40度45分にマグニチュード4.6の極く浅い地震が起り、その直後の1月中旬から南西方山麓の岳温泉の湯が突然10℃も高くなり、10月頃には岩木山西麓の赤沢火口で噴気のため樹木の枯死帯などが現われたり、小動物が死亡するという現象があった。しかし、この時は火口付近の火山性地震に特別な変化はなかった。

今回の地震は岩木山麓としてはその後約2年ぶりの異常現象であったが、歴史的にみても非常に珍しい群発地震である。なお、この微小地震については県営の岳の地震計（京都大学理等部の指導による）や、臨時に展開された弘前大学や東北大学の地震計でかなり詳しく観測され、震源地は岩木山の北東4 - 8 km、深さ2 - 7 kmの狭い範囲であることが確認された。

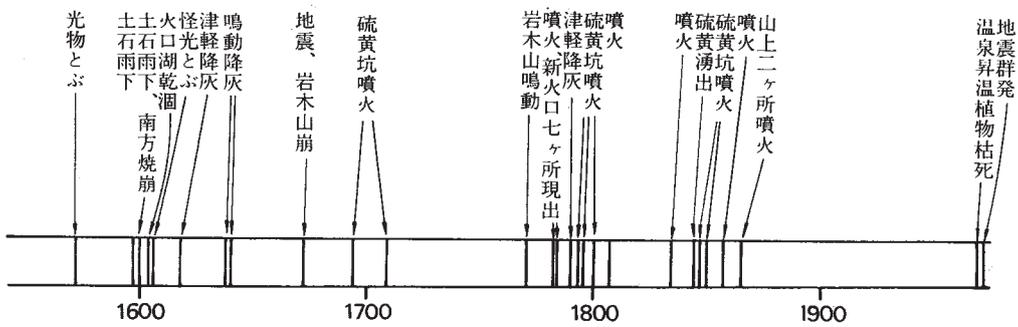
このような火山地帯の群発地震は日本では各地にかなり沢山起こっているが、仙台管区気象台が東北地方の各気象官署の資料を収集してまとめた過去72年間の陸地に起こった群発地震は第3図のようになっている。

参 考 文 献

- 1) 青森地方気象台：青森県の地震と火山。1969
- 2) 宮城一男：津軽の岩木山。1971 森重出版

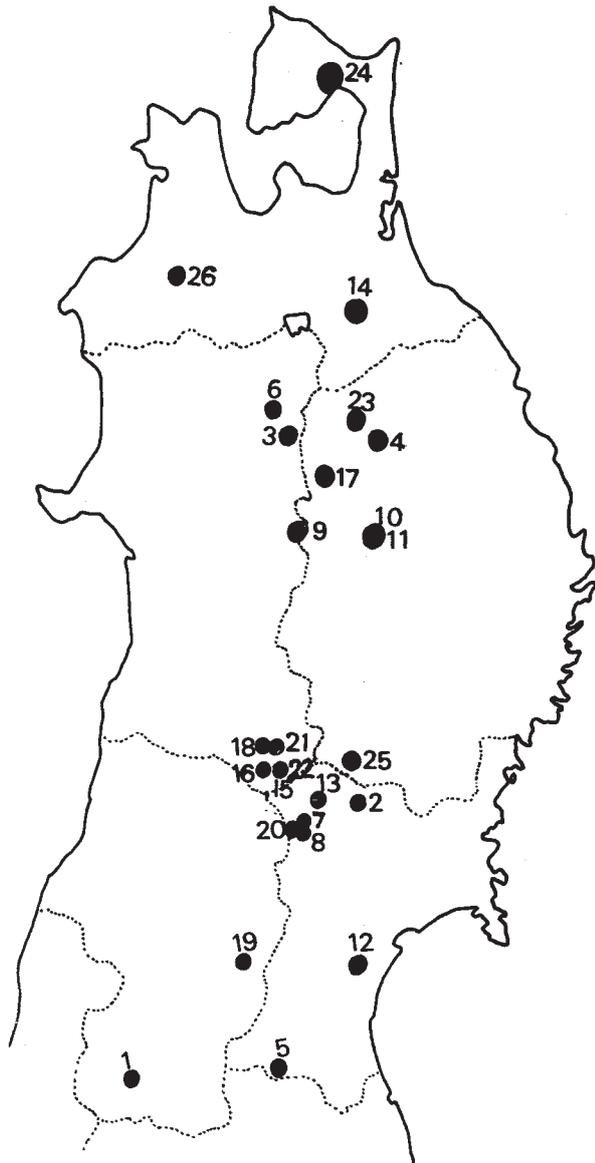


第1図 岩木山周辺の有感地震回数の変動
 (青森県消防防災課, 青森地方气象台調べ)
 Fig. 1 Variation of number of felt earthquakes near Mt. Iwaki



第2図 岩木山の火山活動の記録 (青森地方气象台調べ)
 Fig. 2 Variation of volcanic activities of Mt. Iwaki

番号	日 時	地 域
1	1924 I, 5-12	飯豊の地鳴り
2	1933 III	岩ヶ崎の鳴動
3	1933 IV, 3-7	宮川の地鳴り
4	1933 VIII-XI	奥中山の鳴動
5	1935 VI, 20-28	七ヶ宿の小地震群
6	1936 VIII-XI	花輪の鳴動
7	1939 IX, 19-X, 20	鬼首の地震群
8	1942 IV, 5-V, 24	鬼首の地鳴り
9	1942 X, 18-25	秋田駒岳付近の地震群
10	1943 V, 2-13	盛岡の小地震群
11	1943 VII, 1-17	盛岡の小地震群
12	1950 I, 14-28	仙台の小地震群
13	1950 IX, 13-17	村山内の小地震群
14	1952 III, 23-IV, 4	戸来の鳴動
15	1957 IV-VII	皆瀬の鳴動
16	1957 VIII, 11-13	秋ノ宮の地震群
17	1960 II, 3-4	松尾鉱山の地震群
18	1962 II, 11-24	雄勝町の小地震群
19	1962 X, 24-26	山形の小地震群
20	1963 I, 22-28	鬼首の地鳴り
21	1963 XI, 20-30	皆瀬の地鳴り
22	1965 X, 13	皆瀬の地鳴り
23	1967 I	浄法寺の鳴動
24	1968 I, 4-7	むつの小地震群
25	1969 VIII, 28-IX, 12	巖美町本寺の地震群
26	1972 XI, 7-	岩木山麓の地震群



第3図 東北地方に過去72年間に起こった群発地震(1901~1972)
(仙台管区気象台調べ)

Fig. 3 Earthquake swarms that occurred in the Tohoku district in the last 72 years